



## 故稲葉四郎博士に捧ぐ

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 音田, 正巳 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10466/1916">http://hdl.handle.net/10466/1916</a>

# 故稲葉四郎博士に捧ぐ

大阪府立大学経済学部長

音 田 正 巳

光陰矢の如し、という言葉がありますが、稲葉博士が死去されてから、はやくも半年以上の月日がすぎ去りました。博士は昭和二十九年四月大阪府立大学経済学部教授に就任され、爾来、経済原論講座を担当され、学生の教育と後進の指導に異常な情熱を傾けられました。それとともに、永らく大学評議員をつとめ、就中昭和三十四年十月より、二期四か年にわたって経済学部長に就任、学部新設直後の困難な時期によくその重任を果たされました。もしわれわれの学部に誇るべき点があるとすれば、稲葉博士の卓越した識見とその行政的手腕に負うところが大きかったといわねばなりません。

博士の研究業績についてはいまさら私のごとき者が駄弁をつけ加えることはさしひかえるべきと考えますが、その代表作「経済成長の理論」(昭三十二年)において、博士は、経済成長の分析を、古典的方法と近代的方法

の両者を含むような広い視野から展開しておられます。さらに昭和四十一年には「経済と人間」を著して、経済学のもっとも根本的な課題と取組んでおられます。このように博士の経済学の領域における関心はきわめて広範であるとともに、根本的であります。

このたびわれわれは博士の業績と御遺徳をしのぶために、ささやかな記念号を編みました。どうか博士の霊がわれわれの意のあるところをおくみとりくださるよう願う次第であります。

## 略

## 歴

- 明治四三年六月七日 大連市に生る
- 昭和二年三月 大連中学校卒業
- 同 五年三月 山口高等学校文科乙類卒業
- 同 八年三月 東京帝国大学経済学部経済科卒業
- 同 八年四月 法政大学附属世界経済研究所入所（九年三月退所）
- 同 九年四月 南満州鉄道株式会社大連本部調査課勤務
- 同 一三年七月 大連から引揚帰郷
- 同 一三年九月 経済安定本部官房統計課勤務（二五年四月退職）
- 同 二五年四月 中央大学助教授に任ぜられ経済政策原理講座を担当す（二九年三月退職）
- 同 二九年四月 大阪府大学教授に任ぜられ経済原論講座を担当す
- 同 三三年七月 論文「経済成長の理論」により経済学博士の学位を授与さる
- 同 三四年一〇月 大阪府立大学経済学部長に任ぜらる（三八年一〇月まで）
- 同 四三年四月一五日 大阪府立成人病センターにおいて永眠さる

# 著書および論文

## 著書

- |                      |         |       |
|----------------------|---------|-------|
| 経済政策講義               | 有 信 堂   | 昭和二六年 |
| 経済政策入門               | 近 江 書 房 | 昭和二七年 |
| 近代経済学への道             | 三 和 書 房 | 昭和二七年 |
| 近代経済学の発展——動態経済の理論——  | 三 和 書 房 | 昭和二八年 |
| 経済政策原理               | 三 和 書 房 | 昭和二八年 |
| 近代経済学の展望             | 三 和 書 房 | 昭和二九年 |
| 近代経済学入門              | 三 和 書 房 | 昭和三〇年 |
| 経済学の基礎理論             | 有 斐 閣   | 昭和三一年 |
| 経済成長の理論              | 三 和 書 房 | 昭和三二年 |
| 要説経済学                | 中央経済社   | 昭和三三年 |
| 経済の見方・考え方——近代経済学入門—— | 中央経済社   | 昭和三五年 |
| 基本経済学                | 中央経済社   | 昭和三九年 |

うつりゆく経済——現代経済学入門——

中央経済社

昭和四〇年

経済と人間——経済理論の再吟味——

中央経済社

昭和四一年

経済学の根柢——人間中心の経済観の展開——（大阪府立大学経済研究叢書第二三冊）

大阪府立大学経済学部

昭和四二年

## 論 文

デイスインフレかデフレか エコノミスト 昭和二四年八月号

経済安定化の基本方向 エコノミスト 昭和二五年一月号

ピギー「貨幣ヴェール」 中央大学経商論纂 第三七号 昭和二六年五月

景気観測 中央大学経商論纂 第三八号 昭和二六年八月

オリオン「雇傭安定問題」 中央大学経商論纂 第三八号 昭和二六年八月

貨幣理論における近代的接近(一) 中央大学経商論纂 第三九号 昭和二六年九月

ケインズ「一般理論」 中央大学中央評論 第一八号 昭和二七年一月

経済政策の問題 中央大学中央評論 第一九号 昭和二七年四月

国家と経済 中央大学中央評論 第二〇号 昭和二七年五月

貨幣理論における近代的接近(二) 中央大学経商論纂 第四五号 昭和二七年九月

完全雇傭の達成 中央大学中央評論 第二二号 昭和二七年一〇月

- ジョウン・ロビンソン「利子率その他の論文」 中央大学経商論纂 第四八号 昭和二八年二月  
 二つの体制と二つの経済政策 中央大学中央評論 第二四号 昭和二八年二月  
 資本主義の長期的停滞観——古典学派とケインズ学派との見解の対比—— 中助大学経商論纂 第四九号 昭和二八年五月  
 日本経済と計画経済 実業の世界 昭和二八年八月号  
 ソ連科学アカデミー経済研究所「英米帝国主義に奉仕する右翼労働党员」 日本経済政策学会年報 昭和二八年  
 経済政策のヴィジョンとしての長期停滞観 日本経済政策学会年報 昭和二九年  
 テインバーゲン「経済政策の理論について」 日本経済政策学会年報 昭和二九年  
 新古典学派・北欧学派・近代経済学・アメリカ経済学 岸本誠二郎編「経済学史」 昭和二九年  
 産業構造の長期的変動 大阪府立大学経済研究 第二号 昭和三二年三月  
 景気循環の国際的波及についての一考察 大阪府立大学経済研究第四号 昭和三二年一〇月  
 均衡成長率の意義と均衡成長の諸条件 高田保馬編「経済成長の研究第二巻」 昭和三二年  
 “Some Considerations on the Conditions of Equilibrium Growth”, *Bulletin of University of Osaka Prefecture, Series D, Vol. 1, 1957.*  
 経済成長と景気循環との相互関係 大阪府立大学経済研究第六号 昭和三三年三月  
 経済成長過程における調整機構 大阪府立大学経済研究第七号、昭和三三年七月  
 “A Note on the So-called Secular Inflation”, *Bulletin of University of Osaka Prefecture, Series D, Vol. 2, 1958.*  
 戦後西ドイツ経済の成長と循環 大阪府立大学経済研究第一〇号別冊 昭和三四年三月  
 安定政策は過去の遺物か——経済成長政策はわが国経済政策のなかでいかなる位置を占めているか 経済往来 昭和三四年七  
 月号

景気循環における二つの波動 大阪府立大学経済研究第一三三号 昭和三四年一月

成長理論の展開とその課題 経済往来 昭和三十四年一月号

近代経済学の現代的意義 経済往来 昭和三十五年八月号

加速度原理の経済的根拠について 大阪府立大学経済研究第一七号 昭和三五年一月

“Technical Innovations and the Functioning of Capitalism”, *Bulletin of University of Osaka Prefecture*, Series D, Vol. 4, 1960.

ワイントローブの分配理論 大阪府立大学経済研究第二一号 昭和三六年一月

高度成長政策の反省 経済往来 昭和三六年一月号

地域経済開発の問題点 稲葉四郎編「地域経済の分析と計画——阪神工業地帯の研究を中心として——」 昭和三七年

近畿地方における人口の社会移動と昼夜間移動 稲葉四郎編「大阪湾臨海および内陸工業地帯造成の総合研究」 昭和三八年

経済の世界 大阪府立大学経済研究第二九号 昭和三九年一月

近畿地区を中心とする人口の社会移動(共著) 大阪府立大学経済研究第二九号 昭和三九年一月

消費理論の再吟味 大阪府立大学経済研究第三一号 昭和三九年四月

経済と人間——経済理論における人間の地位—— 大阪府立大学経済研究第三三三号 昭和三九年一月

有効需要中心の分配理論の吟味 「分配理論の研究」高田保馬先生喜寿祝賀記念論文集昭和三九年

コスト・インフレーションについての一考察 大阪府立大学経済研究第三四号 昭和四〇年二月

経済法則の性質 大阪府立大学経済研究第三六号 昭和四〇年六月

需要移動インフレーションについて 大阪府立大学経済研究第三九号 昭和四〇年一月

リカードゥと資本主義の将来 「経済学における古典と現代」岸本誠二郎博士還暦記念論文集 昭和四〇年

ヘーゲルにおける経済と人間 大阪府立大学経済研究第四二号 昭和四一年六月  
マルクスにおける人間の自己疎外 大阪府立大学経済研究第四五号 昭和四一年一二月  
経済学における生物学的思考 大阪府立大学経済研究第四六号 昭和四二年二月  
科学の進歩と人間の自己疎外——二十世紀の苦惱——（遺稿） 大阪府立大学経済研究第五四号 昭和四三年六月

〔付記〕 満州経済年報に発表された論文、各種団体の機関雑誌および機関新聞その他に発表された論説、調査研究の報告、随筆等はその全部を割愛した。（岡本）